

平成 28 年度第 4 回緑区支え合いのまち推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 29 年 3 月 25 日（土）14：00～16：00

開催場所 緑保健福祉センター2階 大会議室

出席者 委員 22 名中 19 名出席、ガイドヘルパー1名
千葉県保健福祉局地域福祉課 2 名、事務局 6 名（緑保健福祉センター長、
高齢障害支援課 2 人、社協緑区事務所 3 名）

【次 第】

- 1 開会
- 2 報告
（1）活動報告
- 3 議題
（1）平成 28 年度 緑区支え合いのまち推進計画推進状況報告（4 地区）
（2）広報紙「みどりのきずな第 31 号」の承認について
（3）第 4 期緑区地域福祉計画（平成 30～32 年度）
計画の策定作業開始について
- 4 グループワーク
- 5 その他
- 6 閉会

【議事及び質疑要旨】

2 報告

主な発言内容は以下のとおり。

(1) 活動報告

千葉県身体障害者連合会 廣田委員

資料 3 を見て欲しい。国は、12 月 3 日から 9 日を障害者週間としている。その週に関連行事を開催している。12 月 9 日は障害者の日として国が規定している。この日にあわせて障害者ポスターと作文を各自治体が募集している。今年の千葉市の小学生作文の部の最優秀賞作品がおゆみ野南小学校の女の子に選ばれた。この作文の中でとても気になった点があった。作文は、京都の家族旅行の話であった。その旅行で和菓子工房に行き、そこで働く和菓子職人の手に障害があることに気が付いた。しかし、なぜ手に障害があるのに和菓子職人を選んだのか気になった。そのことを聞くことは失礼だと思ったが、勇気をもって聞いてみたら職人が答えてくれたという話だった。この女の子は、大きな気づきを得られた。それは大人がそのようなことは聞いてはいけないと圧力をかけたり、障害者自身も訊かれたく

ないと壁を作ることがある。それでは障害者と健常者が地域の中で共に暮らすという目標に近づいて行かないと思う。障害当事者としてそう思う。この女の子が勇気をもって質問し、職人は素直に答えた、とても素晴らしいことだ。こういうことの積み重ねが、障害者と健常者の理解の促進、共に地域で生きていくことに繋がっていくと思っている。是非委員の皆さんも作文を読んで考えてもらいたい。

議題（１）平成 28 年度緑区支え合いのまち推進計画進捗状況報告（4 地区）

主な発言内容は以下のとおり。

各地区部会エリアにおける計画進捗状況についての説明

（土気地区部会・茂田委員）平成 28 年度は、まずサロン活動の課題共有をした。マンネリ化したり、なくなってしまったサロンもある。チラシを入れたりと努力はしている。見守り活動については、既に行っている自治会は順調だが、新たに実施する自治会はなかった。支えあい活動については、基本プランの話し合いを行った。

（誉田地区部会・鳥山委員）見守り活動を 1 箇所ずつ増やしていく計画でいる。徐々に増えてきている。誉田 3 丁目のマンションでも進んでいる。誉田 2 丁目でもアンケートをとってニーズ把握した。29 年度も引き続き自治会に働きかけたい。

（椎名地区部会・本田委員）見守り活動の推進と地域・学校の交流を目標に掲げている。見守り活動については 1 箇所の自治会は順調に活動を続けている。新たな自治会の組織化は出来なかったが、富岡町で 1 人の高齢者を近隣住民で手助けした事例があった。組織化まで至らなかったため評価は B にした。また地域・学校の交流は目標通り実施できた。来年度は小学生に地域活動に関心を持ってもらう取り組みを実施したい。今年度は車いすバスケット先生の講話を実施し、心のバリアフリーを醸成できたと思う。

（おゆみ野地区部会・中村委員）28 年度は高齢者の集う場の開設拡充で引きこもりがちの高齢者をふれあい散歩を推進している。平成 28 年度は、4 回実施した。あんしんケアセンター兼取の協力もいただいた。平成 29 年度も引き続き実施したい。

（おゆみ野地区連協・松戸委員）おゆみ野泉谷自治会では、見守り活動のためのアンケートを実施した。昨年度より多くのニーズが出てきた。29 年度は見守り活動を対象者のニーズをこれから具体的に聞き取りして希望に沿った見守りを進めていきたい。

議題（２）広報紙「みどりのきずな第31号」の承認について

主な発言内容は以下のとおり。

- （中村和委員） 広報部会で作成したみどりのきずな31号の最終案を提示したい。本日承認してもらえれば3月末に3千部発行したい。5月上旬にお手元に届くと思う。

議題（３）第4期緑区地域福祉計画（平成30～32年度）計画の策定作業開始について

主な発言内容は以下のとおり。

- （岡本委員長）平成30年度から32年度までの重点目標を設定し各地区で進めていかなければいけない。8月までにはその重点目標を決めていかなければいけないので、各地区で話を進めてもらいたい。各地区で複数課題を考えてもらいたい。市民説明会を10月に行うというスケジュールが固まっているので8月までに決めて、9月の推進協で諮っていく。重点目標を設定する時に地区部会エリアで話し合いを進めてもらいたい。エリアとは、地区部会区域内で地区部会だけではなく、自治会、民生委員、学校、福祉事業者、あんしんケアセンターなどが関わってもらい、複数課題を話し合ってもらいたい。各団体がその課題をどのように携わり、解決するかという観点で考えてもらいたい。本来であればアンケートを取るなどして住民の声を聞いていく必要があるかもしれないが、時間がないので出来るだけ各団体が住民と接する中で聞き取ってもらいたい。今日のグループワークでは今後の方向性だけでも決めてもらいたい。
- （黒木主査）12月の推進協で策定方針案と骨子案を説明しているが、2月10日に市地域福祉専門分科会で示した資料が本日配付している資料2と資料3である。スケジュールとしては1月に実施状況調査をふまえて3月から策定作業に取り掛かっていくことになる。3月から6月までに区計画の基本方針と基本内容を固めて、6月から9月に重点項目を各エリア内で各実施団体がどのようなことを3年間で行うか、3点くらい考えてもらいたい。10月に市民説明会、12月にパブリックコメント、3月の市地域福祉専門分科会で承認してもらい、策定という流れになる。
- （松戸副委員長）エリアとしての認識が出来ていない人もいるのでそのあたりを説明してほしい。地域運営委員会も活用してほしい。
- （大槻委員）地域運営委員会では5団体で話し合いをして目標を固めていっている。同じことを違う団体でやっても重複してしまっている。行政でももう少し整理してほしい。
- （岡本委員長）スケジュールを見て欲しい。6月には各区の計画の承認になっている。
- （黒木主査）地区部会エリアは第3期計画から設定している。計画策定の流れの図にあるように地区部会や自治会などと連携して進んでいると思う。地

区部会エリアでは地区部会が中心になって、その他の団体と連携してほしい。ただその連携が課題との意見も貰っている。地区部会と自治会の連携は強く示している。緑区は地区部会が4カ所ある。緑区は1つの地区部会内に自治会が多いので自治会の活動も大切に考えてもらいたい。

(松戸副委員長) 地域運営委員会で進めてはどうか。

(黒木主査) 地域運営委員会は市内全域に広がってない。その部分で第4期からスタートは難しいと考え、地域運営委員会は連携協力として考えている。

(岡本委員長) また社協のコミュニティソーシャルワーカーも一緒になって考えていく事になる。是非協力してもらいたい。今後の進め方は今回のみどりのきずなの1面に記載している。6月の推進協までは重点目標の設定などしてもらうので、各地区でどのような問題があるがこの後検討してほしい。

(鴨委員) 抽象的な考えていけば分からなくはないが、障害者の組織は地区ごとになってない。その考えでいくと各地区に入っていくのは難しい。自分の住所地の土気に反映するのか。事務所がある鎌取に反映するのか、どのように考えていけばいいのか。

(岡本委員長) 問題が深い地区に入るのは難しいか。

(鴨委員) それは難しい。4地区に会議に入っていくのは難しいと思う。

(中村和委員) 会議では土気地区エリアに入っている。

(岡本委員長) あんしんケアセンターはどうか。

(布施委員) 高齢者の関わりをしているので3センター共通課題もあるが、土気地区内でも地域性はある。

(岡本委員長) 各地区の重点項目に対してセンターとして何ができるかという視点で考えてほしい。

(池田委員) おゆみ野地区で子どもの課題があった場合にセンターとして何ができるか考えてしまう。

(松戸副委員長) 課題を今日中に考えるのは難しいので別日に会議を開く必要があると思う。

(岡本委員長) それは別日に色々な団体を集めて重点項目を話し合う必要がある。

(松戸副委員長) 地域運営委員会がある地域ではどう考えるか。

(岡本委員長) 地域運営委員会は2地区しかないなので、全地区ではない。

(廣田委員) 例えば緑区全体の目標として障害者と健常者の心のバリアフリーの推進として緑区全体として掲げることも出来ると思う。昨年度は椎名小学校で福祉講話をした。これも障害者と健常者の心のバリアフリーに寄与できたと思う。地区エリアでそれぞれ課題が違うというのは分かるが、緑区全体として目標を掲げて、そこに障害者団体が手伝えることが出来ると思う。

(岡本委員長) その通りだと思う。地区ごとに心のバリアフリーとして出来ることを考えてもらえると緑区全体に広がると思う。それでよろしいか。

(小林委員) 障害者支援施設の代表として参加しているが、鴨委員や廣田委員の話にもあったが、いかにどのように障害を理解してもらえるかが課題にな

っている。関心をもってもらうのが一番の課題である。地区エリアだけではなく専門の部会も必要になってくる。障害といっても分野で対応が変わるので今緑区の委員にいない知的障害の分野の方にも委員に入ってもらう必要があると思う。

(岡本委員長) この後、各委員には4地区に分かれてもらい、課題や第4期への取り組みについて議論してもらいたい。

委員長が閉会を宣し、第4回緑区支え合いのまち推進協議会は散会。